

大村市幼児教育・保育支援センター いっぽ

いっぽだより No.10

令和6年9月発行

TEL/FAX:46-5881

教育・保育力向上研修会へのご参加ありがとうございます！

今年度もたくさんの先生方にご参加いただきありがとうございます。6月にお知らせいたしましたとおり、本研修会の一部は、長崎県独自で行っている「長崎県学ぶ保育士等応援事業」の対象となっております。本研修会を活用する園内研修の実施につきましては、研修に参加された先生の口頭での伝達とグループに分かれてワークを行ってください。インプットしたことを自分の言葉に置き換えてアウトプットすることで、学びはより深まります。実施方法（時間配分等含む）は「長崎県学ぶ保育士等応援事業園内研修ガイドブック（P22）」をご確認ください。

「アンガーマネジメント～怒りの感情は悪者!?～」

講師：有木明子氏（公認心理師）

「怒り」は悪者ではなく、嬉しい・楽しい・悲しい・寂しいなどと同じ、「自分が大切にしているものを再確認するチャンス」の言葉が胸に響きました。

ワークの中で、自分の「怒りのタイプ」を個々にチェックしてみました。会場では「公明正大タイプ～ブレずに突き進む！正義の人」が一番多いという結果が。自分の「怒り」の傾向を知り、その感情と上手に付き合いながら、自分自身はもちろんのこと、自分と関わる人たちとポジティブに付き合う術を学びました。



「保育で絵本を楽しむコツ」

講師：高崎 真氏（チャイルド社）

「あそびのむしにならしましょう～楽しくおもちゃで遊ぶには～」

講師：井村弘子氏（医療的ケア児等コーディネーター）

「絵本」も「おもちゃ」も共通しているのは、コミュニケーションのツールとして大人が子どもと共に楽しむもの。どちらも「知育」として捉えがちになりますが、目的はあくまで「遊び」。私たち大人も、とことん楽しみましょう♪



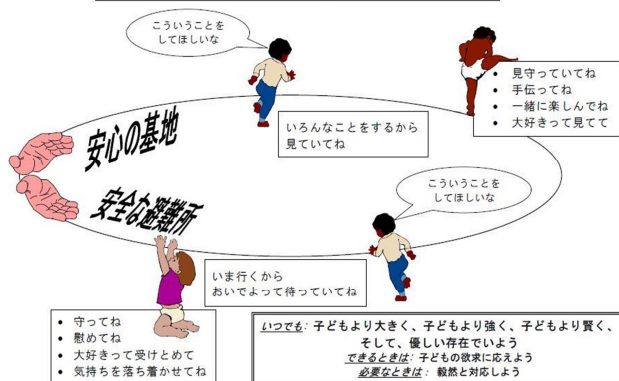
「子育てと子育てを支える方策と支援者の在り方」

講師：山内奈緒子氏（大村市の森学園施設長 CARE-Japanファシリテーター）

様々な環境上等の理由により、社会生活への適応が困難となった児童を治療する施設「大村市の森学園」施設長の山内先生から、保育者として子どもの“今”だけではなく“未来”を見据えて、子どもとその保護者を支えることの重要性や、子どもとのよい関係をつくる、CAREの関わりについて学びました。

子どもがすこやかに育つためには「自分には愛してもらえる価値がある」「不安や怖い時はくっついて受け止めてもらえる」「いつでも戻れる場所がある」と思える体験を積み重ね、心の中に「安心の基地」や「安全な避難場所」をつくる必要があります。しかし、保護者の中にはその関わりが難しい人もいます。保護者自身の背景にも目を向け、共感的に寄り添いながら関わるのモデルを示していくことも、園の大きな役割のひとつだと改めて感じました。日々、ご尽力いただきありがとうございます！

安心の輪 Circle of Security® 子どもの欲求に目を向けよう



Web page: CircleSecurity.org © 2000 Cooper, Hoffman, Marvin & Powell (北川・安藤・岩本訳、2013)

※山内奈緒子氏 講義資料より

【子どもとの関係をつくる】

(CAREの関わり)

子どもの一番ほしいものは、養育者の注目です。いい行動に注目すると、その行動が増えていきます。

子どもは、先生と他児との関わりをよく見えています。モデルとなる関わりを。

3P（増やすスキル）

具体的にほめる
子どもの言葉を繰り返す
行動を言葉にする

3K（避けるスキル）

命令
質問
批判

「気になる子どもの視点で保育を見直してみませんか
～『共生社会の担い手を育む』を合い言葉に～」

講師：久保山茂樹氏

(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター長)

発達が気になる子どもの、うまくいかない状況や困っている様子を見たりすると、頑張っでできるようになってほしいと願う気持ちが強くなってしまうこと…ありませんか？子どもへのまなざしが、その子の苦手なことやよくない行動にばかり目が行き、子どもとの関係が苦しく感じられたことが、私にも多くありました。

私たち大人にだって、よさや得意なことと、そうではないことがありますよね。「いろいろあるけど、あなたにはこれがあるじゃない!」「できないことがあっても大丈夫!」と、うまくいかないことが気になる子どもこそ、よさや得意をみつけて、そこから関係を広げていく…それが保育者の専門性だと感じました。

「こうでなければならない」「〇〇するべき」を緩やかに、「まあ、いいか」と自分も子どもも、少し甘やかすことが必要なのかもしれない。



※著者：久保山茂樹氏
発行・発売：株式会社メイト

一人一人に寄り添った、見方・関わり方や、保育者の心情などが漫画で描かれています。サクサクと読みやすく「そうそう!」「わかる〜!」と共感できる1冊です。(保育に活かせる絵カードつき)

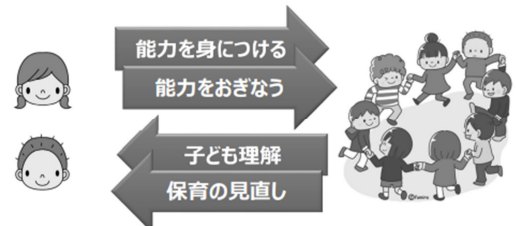


一人ひとりのちがいを大切にしたい

「みんな同じだ」と思っていると、
ちょっとした「ちがい」が気になる
だから、人間関係が悪くなる つながりが切れる
でも、
「みんなちがうんだ」と思っていれば、
「同じ」を見つけるよこびがある
「あつ同じだ!」と思える
そして、その人とつながり合える



故大石益男先生の教えから



・いままでは、**右向き矢印→**を追求してきた
= **少数を多数に合わせる**ことを目指してきた

・これからは、**左向き矢印←**を追求したい
= **多数の側がどれだけ変われるか**の挑戦!

※久保山茂樹氏 講義資料より

※教育・保育力向上研修会の中でワークが実施されなかった研修については、当支援センターでワークの視点(課題)を記載したプリントをお渡ししております。参考にしてみてください。園の実情に合わない場合はアレンジして実施していただいても構いません。

0、1歳児の保育環境

0、1歳児の保育環境についてのご相談を受け、放虎原こども園と三城保育所にご協力いただき、個別の参観をコーディネートしました。百聞は一見にしかず。また、迷った時は学びのチャンス!保育環境を実際に見たり先生同士お話ししたりすることで、自園の子どもの実態に合った、よりよい環境を考えるお手伝いができればと思っています。

今年度は、教育・保育力向上研修会で、0~2歳児の先生方を対象とした三城保育所の公開保育(1月15日)を新たに計画しています。近くなりましたらご案内いたします。沢山のご参加をお待ちしております!



つかまり立ち用の
手作りおもちゃ



穴の中に手を入れてチェーンを出し入れして遊びます。ジャラジャラ…という音も楽しいですね♪

子どもの発達や興味・関心を捉えつつ、安心・安全、生活動線などを考慮したコーナーが設定され、子どもがいつでもおもちゃを手にとって楽しめるような工夫がされていました。

0、1歳児は他の年齢に比べて成長・発達が著しく、子どもの姿に応じて、場づくりやおもちゃの種類、数なども常に再構成を図っているとのこと。一人一人の子どもの姿を思い浮かべながら考えるのが楽しい♪とおっしゃっていました。

